

第4章 取組事例を知りたい

『うどん・そば・そうめんを米国、カナダ等へ』 伊之助製麺 株式会社（佐賀県神埼市）

【取組内容】

伊之助製麺(株)はそうめんの産地である佐賀県神埼市で、めん類の製造販売業を営んでおり、主力商品は当社の売上全体の6割を占めるそうめん等の乾麺で、国内販売の他に米国、カナダ、中国、香港等へ輸出しています。

【取組に至った経緯】

国内における乾麺の需要減少、市場価格の低迷が続く中、主力商品のそうめんの需要期である夏場以外の時期の販売量を確保したいと考えていたところ、輸出向け製品の製造依頼を受けました。

国内の季節による需要格差の影響緩和にもなると考えたことから、平成28(2016)年5月から米国・カナダに向けて輸出を開始し、順次、輸出先国を拡大しました。

【取り組む際に生じた課題と対応】

輸出に仕向ける量を製造するには人手が不足しており、労働力の確保、作業負担の軽減が課題だったが、輸出事業計画を策定し、認定を受けるとともに、日本政策金融公庫の融資を活用して製造工程のオートメーション化を実施しました。その際、佐賀県庁、ジェットロ、佐賀県商工会連合会等、9機関から輸出拡大に向けた各種情報の共有、定期的な会合等の支援を受けました。また、日本の麺文化を海外に浸透させるべく、現地で試食・販売を実施し、食べ方を実演することで普及・消費拡大を図りました。

【取組の成果】

製造の省力化と自動化、作業負担の軽減を行い、工場の総稼働時間の拡大を図ることで輸出に必要な製造量を確保することができました。また、現地での試食・販売が功を奏し、うどん・そば・そうめんともに輸出先国の数と額が増加傾向にあります。

	輸出額(万円)	輸出量(t)	輸出先国
令和3年度	5,622	329	米国、カナダ、中国、香港
令和4年度	6,818	358	米国、カナダ、中国、香港
令和5年度	8,619	433	米国、カナダ、中国、香港、ドイツ
令和6年度	8,532	419	米国、カナダ、中国、香港、ドイツ

【今後の展望】

これまで長年にわたり、春から夏にかけてのみ生産量を増やしていましたが、今後は年間を通じて増産できる体制へシフトして年間生産量を増やします。また、新規輸出先としてオーストラリアやニュージーランド、ヨーロッパ等への販路開拓を目指しながら輸出拡大に取り組めます。



神埼そうめん



輸出品目のうどん



輸出品目のそば



導入した自動裁断機



現地での試食・販売ブース

【第8回食育活動表彰 農林水産大臣賞】

佐賀県立伊万里実業高等学校 フードプロジェクト部（佐賀県伊万里市）

【取組内容】

フードプロジェクト部は、「食で伊万里を元気に」をキーワードに、平成27(2015)年度から地元食材を活用した商品開発を継続して行っています。さらに、企業、NPO法人、市、学校、市民と一体となって取り組むフードバンクやフードドライブ・子ども食堂などを立ち上げ、新しい食循環システムとしても注目されています。



規格外食品による商品開発製造実習

【取組に至った経緯】

地産地消推進の一環として、地元食材の規格外農産物を活用した商品開発を行うことから活動を始めましたが、その中で日本の食品ロスの実状を知ることになりました。「食のまち伊万里」で学ぶ高校生として、食品ロス問題に地域一丸となって取り組む必要性を感じました。



開発した商品の販売会の様子

【取組の際に工夫や配慮していること】

地域住民が参加できる持続可能なまちづくりを目指し、3つの目標「フードドライブの実施及び定着」「食品サイクルシステムの構築」「食育活動の推進」を掲げ、活動をスタートしました。

【取組の成果】

令和3(2021)年には、フードプロジェクト部の生徒たちが中心となり、伊万里市、NPO法人と共同で、活動の母体となるフードバンクを立ち上げ、地域で初となるフードドライブを実施しました。さらに、寄付食材を活用した子ども食堂「学びのKidsレストラン」を立ち上げ、令和5(2023)年7月より毎月一度開催しています。

活動を通し、地域住民一人ひとりが意識することで、事業系食品ロス削減のみならず、家庭系食品ロス削減にも役立っています。

【今後の展望】

地域未来を担う子どもたちへ私たちの活動を伝えるとともに、地域一丸となって持続可能なまちづくりができるよう私たちにできることを精一杯続けていきます。



フードドライブの受付



子ども食堂の学びのkidsレストラン